KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

ホ 2
5614

ホ2
5614
號
卷

冊
號
函
壱
坐
敦
七

雅語譯解序

言葉乃志ゝ
かも中むかしとなるに物語
なりにしを文字にうつしおかる
物まなびする人

さてもてゝ殊ふてとゝさまをれ
の夢ひのたゝゝ鈴木眼ぬし
手代れさをもをふゝけけた
いと孫をさの子にあきれるやし出た
しも雛屋の屋かれ間住麦かゝ

もやのとも小ゝ屋とゝにそなけるさ
除あ屋の乃をものきえの住と
いたゝふくゝ除て向し赤しのさ
とりめさうもいまあむ乃なを仏も
人除きゝうをもをおのゝおを

[illegible]

雅語譯解九例

今の世乃俚言(リヤビゴト)も俗語あり。古今集以來乃歌。又も詞書の詞。又も物語ぶミなどの。今乃世に耳なれぬ詞。或も詞も回ドけ侍ども。高ぎ元の吳ふはなどハ。雅語なり。萬葉集以上。古事記紀詞の類。又古事記書紀ふある尋常(ヨノツネ)の雅語なりも。彩耳も紀詞も古語なり。是も古學乃諸先師の注釋ふよりて。古語なりとふものを別ふ著ハも

屈し。今あげたる雅語の中ふた。此古語のこのハ
らぬもあり。又も同し。紐ふぐ〳〵是の轉りさる或
も文字ごと吳國語(カラコトバ)のまゝ用たるあゞ古俗よ
り用れぞ。まことハ當時の俗俗なれども。今ようう
られぞ。雅語ともいひつべし

○譯ようは。此轉俗を今の俗俗ふあつるをつゝふ
用。一つ俗ふ俗あまゝあるもなり。又もあまゝの
語の一つ俗ふ轉(カツ)るもあり

○解とは。俗ふて明〳〵の〳〵盡〳〵がゝ記所
をぞ。注釋の紐〳〵てとくを云

○解ようり譯の便用よ記る。先師の古今を続
ふ編ぜ〳〵れ〳〵が如し。此書ハ遠続ふかづきま
ようも徒先師乃注釋ふようて。譯解を兼用て。
雅語を部類〳〵て。接(ツガス)ふ便ふ〳〵む。雅文乃
書を用ふ人。參考の助けとふ〳〵ずもあ〳〵
じ

○此書諺語を多く載せて名目の語をバ多く
を省けはハ名目乃語を注釋をぞふ見ぞよく
をゝ捨て紛るゝ事も多くのるべくれど活語のこ
ろづゝえを紛らをゝしくて新ふ詞句を加へざ
まだ細のふを曉ずがゝきあるすべて耳ち
かれ詞のをゝやをゝ紀ハ大方もらゝつ
○詞を集る次第ハいろはを用ふ仮名をいとゝけ
まだあり

○詞を標するにハすべて語ををるべきを
あれど譯の後勢あひ違ふきあふ盡くをさは
得あゝだいの部ふいけてとをゝていをく
をはあげざるこの如し
○すべて詞ハ俗ふ同しくて意の異あるふハこゝを
ふんをつく蛍紀わざあり又一つ詞の間ふ俗語と
同意ふるとを異あるをを異ある方のをを詞
せり。いそぐふ[シタクスル]と詞をつけて俗ふいそぐ

とゝ同じことゝある方をいとざるごのゝ

○古今雅俗ふゝとまてたゞふるゝ〳〵きまでハ
〳〵ゝあゝ紹多し。そハすべてあげぞ

○譯鮮の思ひゝうゞきハ暫く後の考へをま
ち。或ゝ紹乃又おゝ〳〵。それゝるも多このるべゝ
ゞ。これゝゝ後の補ひをまつゝり

○初學(ウイナビ)の人雅文書(ミヤビブミ)をよむ時。此書を倩ふ立て考
へゝゝ〳〵んふハ。助と称る事あるべし。若雅文を

のゝんとて。此書ゝをとゝ〳〵へて按とせバ。たゞふ
るゝ多このゝふべし。すべてこゝゝゞゞの細ゝふるゝんゞえ
ゝ。雅と紹ふてゝ称ゝゝ称まへがゝくゝさゝし雅き
事乃多かるを。そゝたゞ雅文を熟(ウベ)〳〵ふゝくゝ
又て。そゝある様ふゝよりてゞ。んゝゆもし書も〳〵つ
ゞ称ゝゞふゝ

○今世ゝ假名書(ブミ)のこのゝふづこのひゝ。大方俣り多々れ
ゞ。ゞ書と引合するふ。正〳〵称ゝふをゝ〳〵でハい

ねおをえゑの牧。たゞふ事ひらべ。初学の人を。
古言移。雅言假字格等ふらりて。假字をたゞす
べし

鈴木脹

雅語譯解

離屋 鈴木朗輯

い、部

いそだ（シタク ヨウイ）

いそぐ（常言小同ド又シタクスル）

○いとふむ（モクロム）

○いとふし（イソガシイ 暇ふきん）

○いたまく（息搖ゐり。怒てあらくかふものゝふさまゝ）

○いふむ（辞退スル 承知セヌ）

○いとゝ（キノドクナ フビンナ イトシイ いとをし）

の物あり・物狂さ〜を物くるわ〜といふが如し

○いんこのさふ〜　共小上と同さん

○いま　タツタイマガタ　ハ五云あり・追ッ付ク　ハ未来ニ　インマニ　とも譯まくべし・これハ現上の今をあらせて・ふるこの〜俗語と同さあり・

○いまひとつ　モヒトツ　とふふあさる義の今あり

○いづこ　ドコ

○いづく　ドウイフトコロ　何トイフトコロ

○いづら　ドレド　ウジヤ

○いづち　ドツチヘ

○いのぐハせん　ドウナルモノヂヤ　ゼヒガナイ

○いでや　イハウヤウモナイ　ゴンゴドウダンナ

○いで〜　ドレド

○いでこそ　イヤモミドレ

○いでや　イヤサさもどすむ・

○いざ　サアト

○いざふの　いざあう

○いつこの　イツノヒニヤラ

○いのにこそらん　ドノヤウニカミデアラウ　サゾミデアラウ

○いのにて　ドウギヤ　て切る〜付く

○いらへ　ヘンジ

○いつき娘　ヒサウムスメ

○いちやし　スバヤイ

○いけて　若輩ニ　上とう〜うへふる初て・

○いけふ　幼き　牧因とあり・此ハ外ゆもあり

○いとじ　エライ　キツイ　善きすにも悪きるふもいふ　いとじう　キツウ　ヒドウ

○い

ゆく　イツソ

○いとう　ヒドウ　悪きこと　いと　キツイモンヂヤ　エライ　ヒドイ

○いらかく　ケシカラズヒドウ

○いとで　ヒトレホ

○いさめ

フジヨウチ　セイタウ

いさむ　セイタウスル

○いゆかく　イツソコノヤウニ

○いぶせ〜　悪き物を見聞し・悪きすを思ひふどして・心よう〜ぬさまあり　ウルサイ　シンキナ

○いのめ〜う　エラウ大　サウニ

○いかき心あれ　心あり

○い

まく　不吉ナ

○いぶかし〜　フシンナ　トクト　ミトバケタイ

○い

たそる　手負病人を介抱する・ぬく・大切ふ〜て念を入る〜ことか・又　ワヅラフ　ゆをもつふ・我病を自ゆさもるゆとゆる

べしいさをる　勤功ふりて昇進せ〜め・ふをふ　御加恩

○いまめう〜

花ヤカナ　ハデナ　メヅラシイ

いま兎く　風リウメク

○いひろふ　タガ

ヒニイ　ヒヤフ

○いそふう〜　功ヲヘテ・井ル　ヨク行届テ・井ル

○いそづ〜

セレガナ　イムダ

○いもうと　女の兄弟を男よりいふ・姉妹ふかく〜び

○いふか

ひぼ　ラチノアカメ　いふかひなき紀者ハ　ナレデモナイモノヘ。
今俗心つよき紀を　フガヒナイ　といふハ即此詞あり

○いぬ　いハ子イル　こぬハヨコニナル　あり　○いもねず　子ラレヌ　○いを

やまくぬ　ユツクリト子イル　いとぬとハ詞別なる故ふ間にてをその入へ　○いぎさふ

寝くさりたるさまこいハ寝へ　○いざとし　目ガハヤイ　上の文字ハ　○いま

そかるいますかり　下ハけるふつぶ紀てふてく。おい〜まんを回〜ヤ〜おまど。ぶ〜こ

と少でゃんごとふ紀人のいとかそをふしておた〜まんんあるべ〜。
清を八在〜しくあり紀又ハいますかるまてさか〜がるなどのかる紀

○いこのでドウゾシテ　ドウガナメ　○いとまのひぼテスキ

○いざ〜ぬるダシヌカレル十釈抄ヨリ　○いまさりむザヤ

キコエタ　ヿギヤ　○いましも　時モアラウニ　すべて志もの心此外も皆
今トイウ今　同じ。又　今デモ　と譯

する時ハ〜も　アラソヒヤフ　俗語ふ大方同〜。いさ
じゃ心なし　○いさかふ　ハ否なり。かふハかをすなり

○いづくにつけても　イヅレニシテモ　ドチラヘシテモ　○いきぶれ

にかる　行カリノ死穢ニアフ　モノシリ　故実シヤ　○いうそく

有識なり。又文字の

心をもおもてたぐ　堪能ノゲイシヤ
のるもあるハ悲ぐるものあり

○いらぐ　寒き時鳥肌立ぐ

○いぢむ　ハリヤフ

○いどこ　アフソヒ

○いもぬ　忌居なり精進してゐる

をい

ふ

○いさるふ　立やま〜ふこと月のいさよひ同ぢく

○いひそす

こいくいひあ〜

そふこときこも

○いくそバく　イクラカナンボウカ

○いや免

ふかる　月日をへても悪〜さのやま

でいとぐ淺ぐちかるさまく

いや免のけ〜ち

ナンダガ　チナライ

○いでね　デ井　ザシキ

○いや〜うも　カリソメニモ

○いちぎる〜　古ハいちぎろ〜といへり明白ニ著明あり

○いひけつ　イヒコナス

○いへとゝじ　内儀

○いさを　手ガウ

○いさを

勤労出精の有さまを云〜ハ

いさま〜たけ〜の〜あり

いさを〜く　手ガウモノ　忠勤モノ

ろ部

ろかう　云云　論ろくゝ　イフ　ニオヨバズ勿論

○ろ〜さう　縟襠の字

音ろて六位の服ゝ

は部

はつの　ワヅカ　かもうホいさくうなるるもく

○はふまて　流浪シテ

○む

ふくろ　俗ノホカス　ホオル　ハ此詞ノ時あり

ヤリツパナシニスル　ステモノニスル

○はえ

業　もくしし　花ヤカナク　ワイチイナ

○もたる　ツキモナイ

思ガケナイ　ツキホガナイ　ヒヨレナ

フツガフナ　フサウオウナ　フツヽカナ

ナヽト人ヲ　人ヲタウワクサ

コヽうせル　せル　イヂメル

はさふむ　コレハヒヨン

もた　ヒヨレナモノ　もたる

ヽホ回ドまく行取物

語

○もゝ　イヨヽコリヤ　万葉三、こゝゝ　けくふ、はさやこうひも、見ゲひと見初ん

タヾシハヽタ　日本後紀十八宣命、常政有、闘バカ、バタ神、道妨アレバカ此

二つハ古語のまゝ、本ハ最ゝての、もゝと回ゝと、田中、道麻呂いへり、後

よハヌと回まよあまり、云くばゝハ　云ミヂ

ヤトテモコレモツテ　といふこゝろあり

○はぐかる　遠ヒスル

もぐかまた多し　イロくキヅカヒナ

○はゝ形ゝ　ラチモナイ　ナンデモナイ

物ヲたゝうあゝ　定まあたこゝろ

はゝ形く　ナニゲナワチヨト　ツイチヨット

○はゝ

でゝし　シツカリトメ井ル

○はぐむ　俗語ト回まと本ハ羽含まて、

ゐまたとくゝる詞く

○さべる　本語ニ記ス前ニ遊在アリ

云こふ仕る　仕リマス　さるさぎ　皆類ヘ詞あり

○はやく　イツカ先年

ズウトマヘカタソノ以前

○さ〜あし　イギガワルイ

○はらぎた

腹ハ心と云ふ同ト

○さやるか　テアライ　テヅヨイ　みら〜記さまあり

○て　アゲク　シマヒ

○はつ　数さるハのこ〜に散く咲きさつるハ　マツクラニナル　へ云く

さるとる　詞皆同之ム

○さづ〜げく　キガオケル　キヅカイナ　アツハレナ　人のこころ

のとけぬきまをつひ又何るもすぐれたるをもつふニツ
ともふわげこころのさづ〜〜ふまわく記物あれバ〜

○はゲ

ひ　右左の羽根の行ちがひたるをつふかひ
ハかさ〜〜ふ　左く羽根をつふハ俗語く

○さつる　ホツレル

あり糸の塔よ
さあ〜さあり

○はらか〜　同腹の兄弟ハ後ハ同後あ〜でもよ

○さ

らく〜　ソコシンガワルイ

○はらめく　バラツク雨の音の乳ひ

○さ晴さり　カラリトシテ井ル　額の廣きや〜のれ

○はげます　ゼカセル

激怒せ〜むるあり

○さく　母のこめ〜〜〜祖母をさよ

○ばらぞく

ゾウク 字音とき こゝ・ゝ字ハ未審

○をゝあちては ゑゝ キノケテハ

○はぎにあぐ をゝ花ハ脛

あゝぐし・本居翁云人ホ物を脛ハ足するゆをかくいひしるべし

○ゑゝばかま

ゑゝ ホド ゑゝ スルクラ井ニ

○をひま カドグチ 這入り

○をひまろ

かど ツイ ソコ

に部

にゝ スカヌ

○にくげ にくさげ スカヌ風

○にげかし 不相應

にげかほど フサウオウノ年輩

○にかひ 香氣の外ニにかひとゝふゆり・楊山次なゞの花の色・又ハ美人乃かおの・俗ホ美きゝ うゞこがれるといふやうゝゆをいふ・れゝ・ふよいきれぬうつくしきのを・年笑をゝゆるゝ・汁ちゆをふくきれゞ・色つや・光あとをゝ・時よりてハ いふゆり

○にふふ 上のゝをゆて・活語ホあれるゝ

○にるひやか

花ヤカ 愛ゝし

○二の町 二ノキリ

○にぐむ ウルサガル

○に

よふ（ウナル 呻吟之）○にあし（ムル井 ヂヤ）○にくしこの

（ニワクラ シイ）○庭もせ尓云云（庭モ狭シト一ハイ二ある）といふ言あり道もせみ野もせ尓の類皆同

し。後ニハ誤りて庭の事そのまゝ狭の事とせり

ほノ部

ほのく（ボオットト 曙）のわの同韻之 ○ほのゝ たしかなり ぬさまく ほのめ

かきて（ウスクカブラ ヒキシラセル）○ほど 位にも時にも又もいふ時ニを云くするほどハきくスル

（ウチ）ほどれつけ（ヲサウ オウニ）○ほのげ（アンドノア カリ）○ほくかるく

（アンドノアカリ デミタアリサマ）○ほうげづ紀れ里（ホトケ クサイ）○ほ

ん 本の字之（テホン）○ほくゆこのめて（一チガ ヘテ）○ほくゑ

む（ニワコリトワラフ）ほく八鉛之 ○ほどく（ノフ二）る去の時。（モヲナウトテスデ）現在未来のとれ。

（ドウヤウ）（ワルワレタラ）このむ帰是之 殆ハアヤフキ意チカキ言あり 殆字をホトンドと ほどくし

あやふく覚束ふきこゝろ之 ○ほい 本意の字音之 ほいあし 思ひさる類の（センガナイ）之

○ほろく バラく ほろくげて バラくトサセルル ○ほだ

邪ニ足手ニトヒ ○ほとをむ チカヅク ○ほけさ

老ボレタ トボケタ ほきたり とも云源氏常夏の巻 ほけくし

ほけさる さまく ○ほて 相撲の最手のまくス セキトリ 帆ヲ細ク 手り ○ほんえ

やう 性よう 本性ヘ ○ほれいづ クチヘ出スカク サズニ表ヘダス ○ほゞ

ら カうり ほゞ〳〵か 又ホガ〳〵と

へ部

○へつくり 石川雅望云曽丹集ニ二ホ足ヘさりへをつくりゆて奢飾をつくるなゝべし ○へー

すえんて 同人云著用集ニ足ヘさりへ 今も オツペレテ おどろく ○へどつく 俚諺のやうな

まど竹取物語 ホも足ヘさり ○へた ハタ 海濱をはべさと ○へつらふ

鈴屋翁云すべて氏河ハホとりへつく

やりのくんやとまだむとふと四まく

と部

ところせ〜　キウクツナ　バセマナ

ところせく　ダ、ビロウ　仰山ニ

ところせきまで〜　オキバノナイ位ニ　パイニヒロガツテ

○とくい　ナジレ　ダ中

今商人の得意と云詞即是ふて轉じたるゝ

○とハに　常住

○ときえ

かゝを　万代不易

○ところに　イウモカ　ハラズ

○と

き見く　時を得て用らるゝ

寵愛ニアフ　又　ムヲガドキツク　ハヤル　出頭

と見え

か〜まよ　御寵愛アソバス

○とかく　ナンノカノト　イロ〜ト

○とよむ　ドンド　ト云

とゝみふる　ドウト一座ノ大　騒ヒニナル

○とみゝるゝ　アチフミタリコチ　ウ見タリシテミル

○とり

どりふ　メイ〜ワ　ヒ

○とのね　御夜詰ト　マリバン

○と

がふ〜　云ヌガ　ナイ

○とこ　急ハ　疾ヌリ

○とし　精進　カチ

○とりかゝ　いひふすゝ　きをよ

俗世のことは天方同じ・俗世ハ色とよ如ふいひふすのゝふ用るを・雅ふてハよきをあきふいひちすす方ふ多く用るゝ

○どうもな　ヘイ　キ

○とゞこの

ま　レバラクノウチ

何ゾトイフト

○とぶらふ　見マフ

つゝま、俗語の三ヒ
ヒふすべて同ト

○とぶらひ　三ヒ　使ヒて物を訪ふるすべも

○とだゝえ　中絶トギレ

○ともすれば

○ふまさかしら　ソキカライラヌセワ　著聞集又見

○とこたふる　夫婦離縁もとる有り

○とこ　床

○とがま　鷹野

えゝま

○とぢ免　シヤヒ

○とぢむ　シヤフ

○とまもち

て　必死ニ

○とりご　養子

○とる　俗ホンテトルもとどふとるに

同じき事あり

○とどろく　ドロワク

○とどろハ今ドンドトいふが如く、ゴロ神鳴りのとゝろく

○云くどち　何クドウシ

○とを〻　ヒワ〻　去日る與あり

○時しもあま　時節モアラフコトヂヤニサレ合セテ

○とめく

跡よりの收まること

ち部

ちぎる　ヤクソクスル

ちぎま　契ヤク

さきの世の約束のこの世、衢世と云ふ同じく　シヤ

ハセ　インエレ　インヅワ

ヅワハウ　の心ふるちり　○ちろまさり　迫くてこれでを用ちりハまさり

てえゆるきハめてよ紀人をつふ　○ちこのおとり　上のうえ　○ちおも

乳母なり　○聽　役所　○ちこどろ　石川雅望云沙石集ふええこり俗

詔ふ回ド　○ちまだこのま　一向スコシ　○ちまかふ　アチラカラモ

コチラカラモラリニナル　○ぢ　碁よぢとあるハ今つふせきちまを　○ちやうず

打擲スル　ヌとゞめせむるまを

いへハ懲ずるてもあ〜んろ

ぬノ部

ぬきぎぬきる　ムシツヨウケル　ぬれころもともふ。ふるきぬまをていせおけるもええこう

○ぬこづく　ヘイフクスル　ぬうハ額ぐ。つくハ衝ゆて地をつくく　○ぬまどごめ　ナンド

○ぬるむ　水のなま温ふるく。身のぬるむとつふ例あり。倦おこりてこけこゝやうをもとふべ〜　○ぬ

る〜　ノロイ　○ぬぢすべて　源氏榊の巻ふだぐかの浦かをぬぎすべのくり。とある

そ。ぬぎすぐらかゝて。そゝきぬをきせこゝやう

くとつふるく。今俗筆エヌキとつふ回〜ぢく

る部

るゐ 族類ゝ イチゾク チスジ 子孫

を部

をかし 常語ヨ回し・お かしとハ別ゝ ○をち 遠きなちさをフ ズツトムカフ アツチ

をちこち アチ コチ ○をちかゝ アツチノ方 ○をを

をゝて 時廻てゝ イツ ○をデモセツく ○をさくし シツカリトメ井ル ○を

さく 大抵可ナリニ云くせずゝと下ふ ○をさふし ずゝとつふ翻ある時々 アマリイカフ

幼少の義より軽りてゝんの 若輩 ゐるる・又ハ ○をし 氣丈ナ

未熟ゆて・ ラチノアカヌ こゝろみもゐれを

雄くしゝゝ仁体みて云 ○をちこのへる アトモドリスル ○を 居

時・ キツトノ男ラシイ

を 井ル スワツテ井ル 居ありのつまりなるものゐ・ ○をこゞ

りふてとまるゝをゝハトへでくはのことむゝ

まゝ アホウラシイ ○をこめきて ダウラガカツテ ○をこ

をを をこハ本・俳優の戯むるゝめきをいひて・悍アふくゐめゝ

そて・あさゝこ勇むへき主を為ゝり・俗ヨ尾籠といふハ・はか

ヲをゞを声ふよくさるあり

○をこふあるまぬべー
ワルジヤレナ　ス井サンナ　コレヤクナ

○をがむ
アホウラレイフニナロ　オゴキスル　拜スル　を
也かぐむのつまりゝ

○をれて
折れて

○をこづる
をを行ふ　マガウテ
とゝふ雅語あり

ダマレテソビキダス

○をと

つひ
ヨト　トヒ

○をのゝく
オドくづルイスル

○をるた

きふし　をりびんふし
ジセウガフツガフナ

○をと

こ　をうな
本八少男少女のるゝ特ドてすべての男女を
いふ又色情の文あるをつふこゝろ

わ部

わづのふ
ヤウく始テ又俗語ゝ同ー

○わゝり河
サウ三途川

○わゝバゝ
タマサカニ

○わるゝく
メウサウニムレヤウニ

わるなるぎ
ムリニ

わりなく
ナサケナイフ

わるなる
ナサケナイコトニ思召

わるなる紀さゝり
ヨギナイサシツカヘわりハこゝろ

○わづらし
心ヅカヒナ　ムツカシイメンドウナ

わづらふ
コマルル

○わろもの　未熟モノ

わろ〜　ハキトセヌミレンナ

○わろ

どの　廊下

○わろくし〜　表立ぬ一分の内儀事

○わろり

云〜わろ〜ハあ〜りともいひて　云〜ヘシと云ごと

○わまて　わりあくてふ同じ事に少あるまできこゆ

をゆづ〜むし〜なぐのらよ

まひてすることろなり

○わ〜らの　ゑがホよ知事ゆゆしハ笑のゆ〜ゆり

ニコホヤトアイサウラシイ

○わかくし　若輩ラシイ　初進ラシイ

けく　カウニノツテ

○わびし〜　メイワクナナンギナ

○わぶ　カナシガル

わびし〜らに　メイワクサウニ

○わかくをのくよ同じ又老人の

振い声ふ物いふをもいふ

○わらひ　トセイ商賣

わらひん

トセイギ

○わすきぐ〜こと　忘るぬや〜ふと

ぬすきのくこと

かゝ部

かゝて　舞のカタアヒ手

○かづふ　カゝル

○かゝど

けふ〜　勿体ナイ恐レ多イ

○かけく〜し　好色ガマシイ

○こゝ

ほ 容あどの十分ふとくのひうろー きをまかとふぎゝらく フデキ ○かる 遠のぐく ○このき

かれ トホノグ ○このれうくふかる トホノギカヽル ○方

さる 塩チヨケル ○このくおひ 幼うして形のいまだとくのたぬ枝をつふ ○このく

シロクトタマラヌ 面白きふもうに

かるる 上と同じ ○かふー ふもの衰あるるもいとほーきふもい

ふこと むく ○かーづく 大るふて養ふく ○このひふー かひハ代サく

センガナイ ○かやるー 此かそげくとーげち かーふどのける同じ ○かくこ

ふ タガヒニ ○かーにし 恐レオホイ アリガタイ 又俗語と同意

かーこまる 恐レ入ル かーこまり スグレタ 恐レ入タ

○かくふ ブテウハフグチ ○かころ 恐レタイ儀サシヒカヘ ツヽシミ

フソクイフ イヒクサニスル イヒタテル イヒワケニスル

其物ふかづくるく ○かいたき時 たそこのれ時ふ同じ ○かごと かこちごとこかこちを

かろけくそく カヅクゴトく かでとおふ フソクウケル かごとぞこのりて

申レワケバカリニ ○かぎる ホドシキリ 云くのかぎるハ 云てノ分

あア是ハ人のかぎるさく巻のあこの限りく

ナカヌウケハ

○こゝれ
ハ白ヒのかぎアとあり

○かゝえつゝ
傷痛きく趣て迄
き事ふ煩ハしき

ふのあるをいふ
氏帰木巻ふてとけぢうくれバがさ〳〵〳〵

ミル目が笑止ナ
キノドクナ
添

○かひつる

ベソ
カク

○かどくし

リハツナ
キハダツメキブン
カドヒレノアルキヤへ

○かうし

神く〳〵俗ふ
カウ〳〵トシテ井ル
とつゝきこの軒りあり

○かどのア
ワキヤへ心得ガアル

○か
不慎ミフ行儀ナト云評判

たゝのど
一フレ

○かろびたる名

○かまへて
必ト

○かゝハこ
見苦シイ
片羽
フツガフナ
あり

○かゝへハ
ヒトツハ

○かゝらこの
サウパリ

○かアホ

假庵あり

○かゝれ
アヒテ

○かべ
夢

○かもむ

ホノカニ耳ウチスル

○がて
云くがてハ云くゝ
雑ザとふる云

○かつ
カタテヤ
半分のアこ

○かつハ
一ツハカタコロ

○かつく
ソロ〳〵ト小ロカラ

○かぐやか

マバユウハツカシイ

○かぐやかゝの〳〵ず
云こ
ハツカシサウニモ

ナウ
云く

○かぐやく
ハヅカシガル

○云こが孫
無ふるこ婚ガ孫ハ婚ふせん

と心そゝけ走る人々居がゝ　がれ　も同ト何ん　○かいまるる
同意あり　こちまのふがみの
塀間見るハその年侍ふて必垣間ふか
ぎゝず　千ラリトノゾク　をすぐてゝ　○かゝ　ツライ

○からうじて　エイヤウト　ヤウ〳〵ト　○かゝのき　ヤカマシイ

○かごの　ひそみのそれて都あるゝ必ときこゑ源氏湖月　○か
み　カヒゴリ　とゝ〳〵ゑとゝふ〳〵ろあり

けつこう　魚官なり　○かづけもの　裝束ノ下サヽモノ　づけハかづあせあり　か

○かんご　皮箱なり　○かゝらふ　語ヲ合ふゝ　カケ合フ　サウ　ダンスル　色事

ノ契約スル　色事　ノセワヲタノム　○かゝらひつく　ハナレ合テナ　ビミニナル　○か

へゝとと　返書　○かへもく　クレグレモ　ダンダント　○かゝ

ごゝ　ドノミ　チニモ　○勘當　セツカン　オトガメ　セイ　バイ　○勘ず　枕　ヰ

紙從者を勘すゝハ　家来ヲシレカル　○かけても　実事よいあゝでゝゝ　ロノ　ハニカケテ言テミルサヘモ　ゝ

カリ　ニモ　○かよわゝ　ヒヨワイ　○かんざゝ　アタマツキ

かんハ頭ゝざゝハ　面ざゝのゝ　○かいひそむ　から潜むゝかきこも　見又引こめの数ゝ　○か

ヒ子ツタ風シテ井ル

○神さびたる

古雅十風ギヤ

オ礼マ井リ

○かへるまらし

オ上りさるとつふきやう

川級生

○かうさく

ぬすミそさそひゆ

○かどふ

船中ノ旅子

○楫枕

カヂマクラ

雨ヤドリ

○かさやどる

カドハカス

くおそ

さ〳〵しハ別るあそ

○かハせうえうう

よノ部

メヨリ所

縁

この縁ハつて縁こ

○よせ

アヅケ所

○よ

てひきあと云心の縁こ

○よすが

オ礼

○ようせずバ

ワルウシタラ

○よろぶ

ヨロ〳〵トスル

古き門あと

○世のさが

世ヤウノナラヒ

○世の

のとろびうるえるもつ

ムル井ノえく

大ノえく

たとへバ世のすきもの大の好色人といふるすあり又ハ

世ふ

世よも

といふ歌

皆悪〳〵くすぐれさるところあり

○よ〳〵あるる

ナラヒガアル心得ガアル

○ふ

○ふ〳〵

アギヤヤル

○ふ〳〵

仁体ラシイ功者ラシイ

○よ〳〵人

種姓いやしかるぬ人こ

○よ

や

ヨイハ マヽヨ

○よ〜

とだかり もあり

○云くする世ゐ〜

この世ハ 時節〜

○よぐけ〜

大サ ウナ

よぐけく

事く レウ

○よ

どむ

トドコ ホル

○よべ

夜ン べ

○よづのず

世ハ夫婦の習を

いへり・されば色情を志〜ぬる・又ハ男女かさらひ

これとも・いまぐるのあ〜さるをよづ〜ぐとえん

よふれず

ニダ木 娘ヂヤ

○よたぐ

夜ガ夜 ヂウ

○よくとなく

ビヽレイ リフパナ

オイリく トナク

○よそひ

ヨソホヒ 装く

○よそほ〜

○よさ

ヨ

今ハ ニ

○よとくも赤

アケク レ常住

○よろ〜

人テイ ヂヤ

サウオウナ

似合ハレイ

たぐよきるとするハ俗

○云くよるとけよ

けよハまされ ふなり

○よごもれヨ

世統もるく

又 ウモレギデ井ル

サキガ長イ

○秋をこめ

て

ニダ夜 ブカニ

○よくぐち

夜ナカ スギ

○よがま

通ふべき 夜を通ハ

ざるぶ さ〜く

○よく

清都

よ知とりくらくく

ヨケル ワキヘノク

○よ知ぬこち

ゼヒト ホル所

○夜ヨルのふ〜き

緑ノ下ノ 金バク

た部

ためらふ　ミ合セル　チウスル

○たぐふ　ツレダツ

たぐへて　サシソヘテ

○たどる　手取こくこくと行ころこ　ちらこまぬるを心ゑ色こと思ふをも云

○たどし　不案内ナ　愛束ナイ

○云こ弱ふ　弱ひ弱ハと動く時ハ　ソバス　ナサルヽ　とゝまる

弱へて弱ふる云こと動く時弱もせふて我身の上をゑ初之　仕リヽス　イタシヽス　ふ當まり

○云こだふ　云くナリトモ

云くせへ

○たとしへあく　イハウヤウモナウ　エラウヒドウ

○たいぐし

クワンタイナ　イカヾナラフス、えナ　先陣云たゆ

ゆこ不正なり、雅望云たゆゆ〳〵しき多り、急りたゆむこゝろなり

○たゆし　タルイ

○たもむ　ユダンスル

たゆめて　ユダンサセテ

○たゆ　キレル

○たえく　アヒマニ

○たふ　コラヘル　モチコタヘル

○たぢろく　グラツク

云のたぢろ拓ふ　云ノドサメキニ

○たくずむ　云とまるゝ

○たくずまひ　たくずゝ家居ゝ

どのたくずまひハ

○だむ　田舎人の物ゑ声の濁るを云

○たのむ　チカラガマシ

テイタラク

ウ思フ

○たのめて　教ヘよせて　タノミニ思ハセテ

たのむる云云

タノミニ思ハセル云々

○たをやか　シレナリ

たをやぎたる　シレナリ

トミテ井ル

たをハ撓々

○たわゝ　ヒワく

○たをやめ　ヒメゴセ　撓弱女と

いふ

○たむけ　馬の鼻向のるとも云

本をきる声之鏑

る廣刃の斧之　センベツ

○たつきおと

○たむしにても　カリニモ

○たむれみゝ　メワタニジヤウダンモナラヌ

○たゞかる　クメンスル

○たてまつる　たてまつる　せ給ふ事

○たつもはすさ

ぬるもたしさ　立テモヒヨンナモノス　ワツテモヒヨンナモノ

○たけし

利運なるもすぐれたる事のふ之

たけきるとてハ　デキタ　トニハ

た

けこゝぢ　アヤリデキタ　コデモナイ

○たけかハ　半すぐる之　春年夜日

等よ

ふ

○たいおやう　息状之　マリ　ヤヤ　證文

○たいせち　大切

○たよる　幸　便　リカ　タ

テガゝリ　手

寄の心あり

○たぎつ心　ワクセク　思フ心

○ゐれ法だのまと　ワヅカノウチ

○たゆふ　ウヂウギスル

○たぶさ　物をまづうゝふするまの内をゝふきハ總ぬふてまふとゝてすぶるをつふあり

○た

づき　テガヽリ　アンナイ

れ部

例ゐれたま　例ハ格式作法

○例やう　常テイ

○例

ゐゝご　ゴフレイ

そ部

そこら　オホク

そこだく　オホク

○それのゝ

ソノ昔　イセン　又ハむゝのまをい

ふついてま　ソノセツ　とゝふ附ふゝ

○そこはゝとゝく

ドコヲシヤウド、イフ

モナク　ナニトナウムサト

○そひぶゝ　子マノトギ

○そ

ひふす　ヨリカカル

○そだづゝひ　けハゝしくふゝそき山道づゝひあり

○そバゝし　又和ゐるきまゝ不和ふる者正めハ向ハぜゝゝて側目ふゝゝる故ゝ

○そバ

む　ワキ見スル

○そぐつき　ヨコ身ノアリサマ

○そぐろに

何トナウムサト

○そほづ　シボクヌレル

○そくのかも　スヽメル　オダテル

○そくや　ソラクと取込ことをく

○そほぶる　雨のフル　シヨボクふる

○そぐろなり　源氏花宴巻、公事にそぐろなるミ細そしらハ、公方の御用おとよハ出つのくさ

てかられ　ソラトボケ

○そばる　ソヽカシイと　いふよ迫

○そくあぐれ　ザワツク

○そら目　ミソコナヒ

○そよぐ　ザワツク

○そびやぎたり　そびやらの〳〵ごとくセイガキヨイトタカイ

○そ

びゆ　ヌクアガル

○そよめく　ザワツク

○そもく

タヾレ

○そぐろさむし　ゾウブトサムイ

○そをぐ

ふ　ソレナリトモ

○そよ　ソノヽヨヽ

○そこひな　極めて深きを云

○そでつくぐの至　袖ノサキガチヨツトツクヽライ浅きく

つ部

つ

舟ツキ

○つと

ヒレト　名目ホ

てハ　ミヤゲ

○つぐらをり　まゲ

ホ、カラ下ノアル

○つらはき

アれる山道ニ鞍馬の山坂の名ホも有れり、今俗ニ七マガリとつふ、ゲごとし

バイ

○はと免て

早朝ニ

○つどふ

ヨリ合フ

○つも

タ、マリ

○つゆぞのめ　なぐつゆとも

ワカハサレル

杣ゝやるをつのもれ

ヤル

玄　チイツトモ

○つゑ

すとてふハ、てすくるれど、源氏帚木巻ニ入へし

○つらさ

タイヤクスル

○つまぶし

レラヌカホシテ井ル

ジイツト

レニノ井ル

ドウヨクナ

ジヤウ

ガコワイ

○つまぶしつる

心ハタマウ子ヒムリニオシレテカ

マハスレラヌカホヲスル

○つらし

れもしのてよりときてゆきとも見ハめし昊く

ムゴイ

ドウヨクナ

ウラメシイ

カナシイ

○つどふ

アウニル

アツメル

○つかうまつる

ツトメル

うをふ

とかくハわろし

本語ハつゝへよゝるこ、つゝへハつゝのハきるり

○つかびく

引ハリアフ

○つぐしる

源氏細流ホ、〜しまうたとハ式〜ホうたふハあ〜でゝとくなく、万葉五ホ、堅塩をとりつゞしろひゑくれもすこしつくふとるり

○つぐうろと

ハナウタ

○つきかし

ツヽウヌ似

合シカラヌ

不相應ナ フヅガフナ
○つきあらぬ云云 ソヽリヨウ
○つれか
くて〜 ヒヨンナコデアッテ
○つぶく ミルく と後する時。つぶハつぶ〜ちるく コヽく と後する
時。つぶハつぶきあるく ○つぶ〜う ミル ミル
○つむ つ〜むさて。てゝかくさて
ム
く ○つきぢろふ ツヽレヽフカイ 引こむ 袖引する云く
○づ〜やの
心そ。づ〜ハ厨子う
○つや〜物もみえず アヽリシ
カト物モ ヱエヌ
○つこ保きあ 因果ナ身ノ上
○ついゆつ

いえ 弊の字よく あゝこまり
○つきぐし 三ツコウ・レ イ むラレイ
○法
やゝこの ハツキリト あざやうく
○つきせす云云 かぎ尺分くゝゝと ふふ回ーきあ有
○つぶやく 俗みも云 小回ー
○つぶさ メイ サイ
○つき
きゝて ツカウド
○つきく タイクッ
○つまりぬる
契冲云猫の風を待〜ふ 時のやうふするをつふ
○つのの ナツト ノヽ
○つ〜
づゑ ホヽ ヅヱ
○つまはじれす ふくき物ゐをえ ずはのちとざかり

ついひぢ 築地

○ついぢむ 啄とかくつき食ふなり

○つゞのふ 償く

○ついまつ 続松と 手レヨク 松火 タイマツ

○つひの 云云 始終云云

ね部

ねんごろ レバウメ コウヘテ 又 ガセイヨメテ

ねんごろびて

コウヘカラテ

○ねぢけたる 心のまがりてすなほならぬを云 ジヤギ あるるなく又源氏

空蟬巻小白形の無難なるを 祢ぢけたる所なしとへり

○ねびまて 年のふけてとしまと契冲

いへア

○ねさし ウラニクイ

ねたむ 口ヲレガル ニクカル

○ねび

たつ 生長して形ふどのよく調ひたるを云

○ねぎ〜ふ 犒ミ慰 勞ク

○ね

ぎこと 神をいのる 願シ事ク

なの部

なづさふ レタレウナジム ダヨフ 古語そハ ウキタ

すなるを中古ふ特ーなるく

○ふぐれて

コレカラダン〳〵月日ヲヘテ行ま ニナツテ

○ながらふ

年月ヘテモシワトレテシレナズニ井ル

○な

げの云云

ザツトシタミ〳〵ナヨフトシタ〳〵

○なほ

ヤハリ〻ダドウシテモトカクニ

○なのさけ

恩愛ジヒ心

風雅ナコヽロ

なさけなし

キガナイブフウリウナ

ムタイナ

なさけくし

子ンゴロナ

○なよく

ヨワ〳〵グニヤ〳〵

な

よゝか

グンニヤリトヤハラカ

なよびう

ヤレワリシナヤカナ

○なごのむ

ナガメル

ウツトリトメ井ル

又歌を

くたくうすくさるれホ詠の字をよめり

○ふつのゝ

スイタ〻チジヤ

カハユラシイ

アイソラシイ又俗語と同ま

○なつのく

チツク

ナマナカ

ホホにも

しのあるとふきも同ま

○かま矢のし

フウリウナシナヤカナ

かまえく

ヒヤラツク

なまめかしく

タガヒニアギヲヤルジヤラウキ合フ

○かのめ

ミカトセヌ

かの矢ちく云云

ナミ大テイデハナクえく

○かま云云

ゆゑて

未熟ニヘカタのをなり

○かま人ろし

コハヅカシイ

かまろろ

ちゆと同上

なまくだゆし同上

かまろづく

ち〜

コメンダウナクト心ヅカヒナ　チ

此歌のかまとゝ云ハ　ドウヤラチウクリ　と云心なり

○ふ

まくの

ナヽ中ノヘタナ

○ふまんある云　此ふまんあるの五文字へかく云

主ゝ　ナヽゴシシヤクナミヽ

○ふ免〜

ブサホフナ

ふめげく

シドケナウ云く　御無礼ラシイ

とゝふまゝふ

○ふいぶ〜ろふ云

るゝありゆるゞりたるさまむれゞく

○ふふゝふ　ふに〜おふ

其名ニ持テ井ル　又評判ノミヽ　名代ノ

ミヽ　とゝふ心ふと用ふ

○ふゝいづ

陞進するなり

（アガル　シダス）

○ふごり

アコリ　迫ゝる跡ふ其けのゆりたるを云

○ふづむ

トヾコホル

○ふふたゝの

人を侮ること

ゝ　何ホド

何くれと

ナニヤカヤト

○ふ〜す

シコナス

○ふぐさむ

心ガハシル　ムヲヲハラス

ふぐさめ

キバラシ

○な

ほこと

ふかざゝ言へ

○ふほ人

通例ノ身ガラノ仁

○ふふく

ゑあ〜で云

ナンノコモナウ　何ノザウサモナク

○ふほえあら

す

ダヽウテハエ井ズ

なほあ〜じふ云云

其分デハオクヽイトイフキデ

ふ

ほあ〜ごぞ　ダミツテモ井ラレマイトギリ一ヘンノコトバ

この　柔和

○ふごや

○ふごらこの　あごやりかるさまと

○ふまぎひ

に　ゼヒナクヘゲテ

○ふでふるもを紀　云　云　ナンデモナイ〻〻

○ふべて　一統ニ一トホリ

ふべてを〜ず　一トホリナラズ

○ふ

か〜ひ　縁家ヒダガラ　ア

○云　云　ふれで　春ふれば〻　春デイハウナラ　ありあり

春ふれバとそこ〻〻

○云

ふべに　並ぶこそれと同時ふあり

○ふにぶ

何ノタレワタクシ　ソンジヨソコ

○ふず〜ふ　準じル

ふず〜ひ

マコシノオトリ

ら部

らら〜し　功者ナ　カウノヘ〻ス〻チ　ららハ本

労〻労ハ仕宮の一功のことあり

○云　云

ら　ゆび〜らハナレギサウニ　ありさの〜らふハ　リコンサウニ　ゆさ

この〜らハカシコダテ　〻云くら〻〻云くべら〻このら〻もこれと同ド

○らうたし　カハユラシイ　ムゴタラシイ　労て〜れ

○らうぶし

ムサクサトラツレガナイ　ガヤ〳〵ト
ヤカマシイ　乱かもつとうるさく　○らうある人
物ニ心得功者ナル人

むノ部

むくつけし　ミグルシイ　オツロシイ　キミガワルイ　尾張の田舎の詞ホ　ムツケタ　と云即是あり

むくゝし　上ホ同ゝ　○むとく　無徳あり　○むつ

かる　ハラタツ　イリクム　○むね祢つぶる　キガモメル　タウワクスル　○むね

をつぶす　キヲモム　むあつぶゝし　心ヅカヒナ　○む

祢もゝる　キガイレル　○むつのし　むつのしげ

〻　ムサクロシイ　メンダウナ　○むげふ　一向ムクニ　むげく　一向ジヤ

○むゑん　無心あり　○むど　石川雅望云無朝臣　イツヽデモ　○むね

と云　カモニ云〻　む祢とある云　オモナ〻〻　○む祢

む祢こゝぬ云　オモダヽ又云〻　○むこのひ火つく

向ひ火を分る人の後立時、我も後立てむすぶをいふ　○む弥もひしけて苔の
絡のつよくふたぐるをいふ　○むす　生するれ古敷草むす苔むす八ハエル
ゆり、むすこむす炎のむすも同意
○むかで　テブラ　空手　といふ俗語も、植松有信云、手掌のうつりあるべし

う部

うけぐ里て　オシハレテ　○うてあり　イヨ〳〵ワルイ
うたてなる　云　ヒヨレナ云〳〵　メイワクナ云〳〵　うたて　ヒヨレナヤ　重〳〵ア

二十リ　○うれいさし　ツ、シレデダメツテシレバキウツシテワルイ
○うちつけふ　ソツジニノフトシタ思ヒツキデニハカニ　サツキヤノニ根ノナイコ　○う
しろこ　ウシロダテ　後見　うしろむ　トリモツ　○うしろ
めくし　後目てさきく　ウサンナ　キガユル　セヌ手放ニテハアンジラレル　○うしろや
すし　キヅカヒゲガナイ　うろめくしのくく　う　○うるえし　キウトメ井ル　女ハ
美顔の心あれども。中古ふ特して出武　○うるたしむ　カ中ヨウスル　○う

つゝろ　レヤウ氣

うつゝ心もなゝ　正ダイモナイ

○うとましう思ひある　アイサウガツキル

○うし

ろで　ウシロツキ

○うちとけする　立入タ

うちと

けゴト云　立入タヨノセンサク

○うるせく　キツトヨロレウ

る八ゝくふ仏ゝう

○うゝへ　ウラハラ

○うらもなく　何ノワケモナウオ

クソコモナウ

○うけふ　ノロウ

けへバぶどゝらく泡く

うけひうけん

○う

けひく　兼引スル

○うべし　なうシイ　シカ　ツベラシイ

○うすぐく　源氏權卷うすぐきいできて玉小櫛云古事記中卷ふ立ゝ〳〵ていすぐき〳〵とあると同

〳〵刻出ていそぎもゝ〳〵アて来るさま

ゝ如と知とハ結ひよく馬ふ毛あり

○うかびて　ブカツイ

テ　定らぬさまあり

○うえく　う八即其声々

○うち云　う云ち

つけよゝやき之又　ツイチヨウト　とふゝろもあり此れの發語ふ

ふゝと云くかき云くあり　ふゝハ抱むくふゝれふりのゝろゝかきゝ

サツパリネ残　と

○う

ふゝろあり

うちわゝす云　ツイ見ワタスミ

○うちく　ナイ ナイ

ねくし　ハヅカシイ

今も東國人ハ物ゐあきたるを　ウンジハテタ　と云ふ

○うんず　アイサウツカス　セイキラス　石川雅望云ふんハうえく

らやえふし　ゴドウゼニ　鈴屋翁云我と人とのうへをうえ

ゑふと　人のまされるもあり我と同ドにする

とバ云ふ

○うつの人　源氏物語湖月師説云つも

ふる人とつふとあり

○うえふ　ヒタスラニ

○う

○うつくし　アイラシイ

○うかゐ　男女ふ通して童形をつふ

○う

うつくしむ　カハユガル

○うまぞひ　ロッキ

○うらぶる　グニヤリトシホタレル

○うら云云　うえのれのうらハ皆心中のことあり

うらかなしやまし

○うつろふ　移ク・花紅葉ふハ　スガレル　チル　木草ハ

色ガハル　人の心の　カハル　をもつ

ね部

○ねて　率ア　ツレテ

居立ての姿ふ　カヽツテ井テオ　セワヤカレル

○ねざけ　坐したる　○ねざりいづ　居去出ク・俗ふ

もつ迫ク

○ねかのろ〳〵ひ　田舎通ヒノスギハヒ

○ねまちの

月待　○ねで　堵ク　○ねせき　堰ク

の部

のくたる　ヤカマシレウ言タテル　又　仰山ニシタテル

○のどえて　レヅメテ

○のどか　のどやの　レヅカ　オダヤカ　コヽロシヅカ

○のアも

の賭ノ　○のぐまがくさふ　逃ル方ヲ知ク

○のと

き　秋ノ比ノ暴風ク　○のへふす　偃ノ字ヲよめアノヘハヌ人ク　子ルヘトヾ　ヒノ如クトヌフ

○野もせふ云　野モセバシレトミヽ　庭もせふの下ふくし

ホ部

おくぐかし　オク病ナ

○おひまどをる　行サキヲヽウシレナフ

○おくす　我ハされぐち人を　あとふのこすく

○おもぎ〳〵ひ

小児の人見シリ　人オメ　するを云

○おもてぶせ　ツラヨゴシ　フグワイブン

○ね

もておし　外ブン ヨキヲ

○おろく　云云　多別モナク云〳〵

○おぢろけ　一通リ

○おのゞぞく　各と同ジメイ〳〵　テンデニ

○おかけふし　飾けふしくオホナ紙ルヲく　オモクテ・レイ

○おもふし

アワカハナ　おもふく　云云

テンポノ皮ニ　オレツヨウミ

おもあ紙さ

ま　ウテヌ　負ツキ

○おれて　おろけてのつまりあり　タボケテ　ウツ・ヌカ・レテ

おき

バカ物　おろ

けよく

おれし　ほけ〳〵し　ホ同〳〵

○おもひぐ

まふし　思ヒヤリガナイ　考ヘガ行トゞカヌ

○おふく　多相應ニ

○おい〳〵か　大ヤウナ　何ゲナイテイイ

○おい〳〵かふ　ジレジヤウニ

手ニシカウ　ムザウケニ

○おどろ〳〵し　仰山ナ

○おそ〳〵

ドンナ

○おぞし　おずまし　おぞまし

皆同ジふて・女の心づよくまあ〳〵きを云

○大こゝろ　大ガイ・大テイ　表ムキ一通リ

○捉

サダメ

○おきつ　てつると活らくく物るを定めて人ホ云ふを也・又心中ホ覚悟するを也云。

○三十七

掟の活用に あるべく ○おぼしなずらふ 〔同格ニオボシメス〕 此類のおぼし云々

思ひ云しといふ詞多し。又は思ひ おぼしを下につけてみるべし ○おもほす 〔ゴザル〕 ○お

もさうす 〔ゴザラセラルヽ〕 おもさうすなり ○思ひあがる 〔キヲ高ウ〕

〔モツ〕 ○おしなべて 〔ヒキクルメテ 一統ニ〕 おしなべた

らず 〔ナミくデナイ〕 ○おぼえ 又 思はくなり 〔世間ノオモハク〕 〔上ノオボシメシ〕

○おぼえず 〔思ヒガケナイ〕 おぼえなし 同上

○思なほ之 〔存外ナ〕 おもなずふるす 〔大ヘンナコト〕

〔チヽカラスヲ〕 ○おなざり 〔ヒトヽホリ一表〕 〔ムキナホザリ〕 ○おありう

かろらうのうしく ○およすけて 〔小児ホツク詞也 ヒトヽナリテ〕 〔チユガツイテ〕 おれ

ますけのまふ 〔オトナシヤカニ仰シヤル〕 およすけぬる

事をいをぬでよ御るを制する詞なり 〔小児ノコマシヤクレタ〕 ○お

のし おむのしくおむうしハ趣かしありをのしとハ別しを すべく賞翫すべきさ刀を云 〔オモシロイ〕 〔スイタフウ〕

○おもだくし 面白くしあり。外ゆくの紀心。面伏せのこらかして。面おこしくとつふ同し

○および 及ビゴシ

○おかどう 大やうふくぶくしのこぬこうろあり

おほゝか 大ザヤカ 上ト本ハ同し言へ

○おかどく アドナウトリシヘラヌ

大どろの話語小なりこうろ

○おぼえく おぼろあくあり トボケガホスル

○おぼる 上と同意 大テイ かしてあまりこうこぬすんだれ

○おろこの 大らう特しておろこぐつまりておろこ物すなぐ

ハ愚の心ともあるこ オロソカ ソロツコイ

○おろかちずゝ 俗ホエ 小同ド

○おろけふゝす 上と同意ナシ 大テイデナイ

○おこたる 病勢のゆるまるをもてふ

○おこるま フラチアヤマ

リ ブサタ ブサタノコトワリ あやまる詫文を急状とつふこて心得べし

○おきふびこる 年寄ラシイコロ子

○大とのごもる ギヨシンナル

○大厨ごもるおきて オヒルナツテ 鈴屋翁云花のちるを咲ちるとつふが如し

○おもひごまかし オモヒヤリガナイ

○おもひや

あかし　常にもふ心のみ小思ひ　ひげけを見るを云

○おこるふ　取ハカラフ

○おすル　申シ付ルオホ

せ付ウレル

○おぼつのかし

○おびゆ　ビツクリスル

シカトシレヌ　シツカリトセヌ

コヽロモトナク　マナドホナ

○おがえのし

シカトシレヌコ　デブアレナイナ

○おのき　ワレラ

ワタクシ　ソノハウ

○おのぐ

ワレラガ　拙者ガ

○おこづる　さそひいざなふあり又

ソビキダス

○おもふさまに

存念ノ通ニ　存ブレニ

○おあ

たちて　フミコンデ　ハダヌイウ　車ヲ下リ立ふたとへる詞なり　の乳ゆて馬

○おも

やう　カホツキ

○おぎのる　掛ニ買

○おもひ及ぶ

ス井リヤウシアテル

思ひ及びぐた　アテタガホ

○思ひあた

レウケンヨツケル

○おもひあるる　レウケンガツク

○おがし

ふす　コレウケンヨツケラレル

○きぞたてまつる　オ装束メス

○おもひ弱すふし　色ミけ〳〵シビキヤ〳〵シツクス

○おうな　老女ゾ女のまゝ　ちゝ母なる翁ゝ

○おとな　年バイナ人

○おとなし　むうシイ

○おきまゞをす　オキウシナフ

○おもがくゝ　マギラハシ　面隠ゝ

く部

ぐす　ぐハ具瓦倶瓦人をつゝ物をもちたづさふるに皆云

○くもい　口入ルゝ　せワヤリ

イケンスル

○くもで　蛛手ゝ又雲路ゝ

○くづをる　朽萎瓦老くづ

をるハ　老クツスルゝ思ひくづ

をるハ　キヨクリラカスゝ

○くまがくる　月の雲隠ル　たゝくて人

の見えずなるをいふ世ハ死るをハ限れど紫式部の頃までハさもあゝば存生の人の列ゝをもいへて

○くゝす　腐すく思ひくさすハ心　小ヤシミサゲシムゝ

○くまくゝ　かくれさる　おゝもり

○くはかし　メイサイナ　隅カラ隅マデヤラズノガサズ　くまハ隈ふてかくゝ不知をいふなり

○くをゝ　エミミラナガアカヌトハギシミガナル　ニガくシイ　ノコリ多イ　ザンネンナ

○くらへぐるし　ドチラガアカヌトモイヒニクイ　アヒテ　ニナリニクイ　モテアマシタコトデヤ

べぐし　トリ、ハ　シニクイ

だぐーきる　ダメサシ　アヒダノアイサウ　ハナレノツガヒノイヒクサ

○くすー　佛法クサイ　神サヘクサイ

○くーいとし　くい屈くぶとし　ハうもれてと

しのつとー　小同ー　キガ屈メワ

○くさひ　コザ〳〵トシタ　ドヒ　ぐとハ砕シ

○くさむす　功ガ入テ井ル

ルイ　肩身ガスボケテワルイ

○くんず　窘ず　困ず　メイワクスル

コヘル

○くぐり　あようぐりハ　イクシナカ　ヘ一ぐりハ　一シナ　人分ぐんの如ーとつるを如件とかく

も件ハ志ふのぐるてく　ぐりともよめぐちり

○くれまどふ　越傷の意ーくて　ヲ又ムチヤニナ

ル　を　いふ

○くうづれたり

クサガ　ハエル

○くさや　是ハやの時く俗ふ　ソリヤ　とつふぐごとー　又サラバ　とつふぐ〳〵ー又コレ　コオ

とよびうくること　ばともあとるく

○くじもたふれ　孔子も狂く　生ル生ル　タボケル　義経記ニハ

弘法モフデノ誤　と　つよ言ふひちり

○ロなそび　ロテンガウ

○くると

あくと　日夜　朝暮

○位みどし　座セキガ　ヒクイ

○云　云

くつぐへる　めでくつぐへる　その物ぐるくふ　くつぐるの故皆

○四十二

ヤノ部

やすらふ　見合ハセル　立ト一ル

○やど　屋外ヲ云フ。テイゼン　ヤレキ内　やどらふ。モナホサズ　旅シユク

○やごて　スグサマ　サツソク　コレガスナハチ　トリ

○やんすがし　各別ナ　ガ〳〵おどのことふすぐれたるを云フ　ヨンドコロナイ　モダシガタ　ヤイオノレ

○やつき　忍びて出る時、軽く身こゝろをしゝろきのり出るのるを云フ

○やをら　よろ〳〵こゝろ〳〵くつろらぬさま　ソツト　ソロリト

○やま　よひらゝるあく。又おどろくあく

ぐち　物のもぢめをつ

○やく　形のやせ衰ふるく又カルイナリニナルく

つる

○やつし　貧しきさまく

○やう　段〳〵ソロく　イロく　サマく　これハやう〳〵の軽く　これハ様〳〵の字音く

く

○藪原　野原草原ヤブハラ。藪の字の心大抵うあく。俗ハ竹やぶをたくふやぶとつ故ホ藪の字をやぶとよむハ誤とつ者あり。雅語をもつて知てあやまりく

○やまぶし　僧の自つことばく

まぶしの分

○やく　心やまきろく

○やすかゝぬる　キノドク　心外ナ事

やさかゝぶる男ゝ　心外ガル　心を ス　ル　キノドクガル

○やよけれバ　ヨケイアレバ

○やるゝとふゝ　物思ひの晴ゝ　やゝのろれく

○やぶさこの　レワイ

○やさゝ　恥カシイ　イウビナ　打アガツテ井ル

○や

さゝむ　優美メカス

ま部

まいて　まゝてく

○まゝとや　ホン二オ　オソレヨ

まこを

ふゝ　ともい　へり

○まほれ云云　ロクサマニ　ミ本式ニ

○まろ　男女

共よ自移詞くゞゞ　世男ちゝバ　此方　女ちゝバ　コチヤ　とつふゞごとゝ

○まろ

かす　まろぶれ　ふ回ゝ

○まゝよゞゆゝ　カゞハユイ住ニ結構ナ　フレンヂヤ　ハデナ風

○まゝ　目ツキ　目見く

○まかるふ　トリツク　ロフトリ

ハゾカシイ　ウルサイ

○まねる　参上スル　酒食ある　サレアゲル　メシアゲラレル　ゴ著用アル　衣服ある

一カ　ナフ

○まかる　行ある　イク　参上　イタス　トホル

○まさふゝ　ムホ　ウナ

まさかり　小児の遊びすの やうふるまを云

○まごのくー　まが

ハ狂ヒ又禍ヒ　○枕ごろ　引コトイヒクサ

○云云　まで　ミミクラ井又常云ふ

同じ　○まねぶ　口上をまねふのこと又物まの有様をまねふかとるをいふ

○まめ

シンジツ　ジツテイ

ふも　アリヤウハ

ま兄やこのん　シンジツニ思ヒコンダ体デ

ま兄やの

何ノソノ　○まどふ　メイワクスル　頼敗メラチモナイ体ニナル

ま兄だつ　トクジツニモチコム

○まさに　メイワクスル　タウワクスル　あきまどふハ思ひまどふ

ハトホウニクレテ心ガムチヤニナル　○まとゐ　クルヽ座ノヨリ合ヒ

○ま

がろー　人魂の形をあゝハーて面白ふ見ゆるをいふ又行たき所へ行とて身よりて出る魂をいふ

○まつハる　ヽキワク　ウツイテ井ル　ミタシ

○まつたーみふ

オソバサラズニミタシウナサル、

○まほろ〜孫とも　ロクサヽデハナケレドモ

○云くまねーて　ミスル体デ　○まゝ　ヽタホカニ

○又の日　翌日　又の年　翌年　○まく　源氏物語

蓬生巻ニ見えたり・乳母の子・乳母の子・未詳

○まけどだまゝひ

まけごろ（上ニ同じ）○まして（ナホサラ）

イヒガヽリデヒカヌ氣

○まかりまろし（イトヾゴヒ）○まゝひら

く（申レワケスル）○まゝのくし（サウくシイ）○まうと

（キサヽ）○まうづ（ニ井ル）但ハ此方へ糸るニハ泊く）○まうのだ

る（糸りのがるあり）（アガル）糸上スル）○まうけの物（引出物）○ま

きぐり物（モテアソビモノ）○まだき（ニヘビロ）○まゞ

し（ニヘメナ）

け部

けゞかゝ（けハきうげのけ・氣の字音ニあゝす・漢語と自然ニあ通符合ゝたるく・以下の七条皆同じ）

○けどほし○けぢこのゝ○けゝと

ゝ（うとまゝく思ふるきアをつふ）○けふくし（ふくゝハ心ふくゝのふくゝく）

○けざやの　ハツキリ　サワパリ

○けざやぐ　上の詞を強かゝる

○けおさる　オサレテ　ミエル

○げホ　ナルホド　イカサマ

○けし　テキハキト　シテ井ル

○けえひ　ヤウス　ソブリ　ケブラヒ

○けゝ　知だむ　ケブラヒヲシラセル

○けやけ　キモチヲミセル

○けゝ　キハダツテハ　ナハタシイ

○けぢめ　ワカキ

けゝらえおと　けゝる詞く

○けゝゝはあゝす　けゝハ　イフウナ　るすれホげゝゝ

けご空　襲ハ晴の

ハあゝすハ　ワルウモナイ　ミクルシウモナイ　とゝふるすべさるを又時して　のゝりそけゝきゆをもつへと　昂俗ニケヒカラヌ　と云心なり

○けいめいす　字音あるべし　經営又敬命かどの字をあてれどこゝハさもときこゝまど丈字ハいのぐあ

ら　○けゝ知とる　キゲントル　まゝ　ケブラヒヲ　見テトリスキリヤウスル

ん

○けあがる　逆上スル

○けちえん　招島ゝ　カクレ　ナウハツキリ

○げせう　あゝハる　ゝまん

○えこ　えこゝろうすぐれ　てゑしきあり

○けけ　ホ

○けぬ　キエル　シヌル

○けつ　ケス　いひけつハ　イヒコナス　ゝげたるハ　オサレル　なり

○けさう　假裝ス　ケシヤウ　又　意
唱ヘヨトて誤まるく　菓ス・繫想力・懸想ス

○けうらきよらを

ふ部

ふりたく　元　元　ワザク　ふりハ發

○ふさけゑる　フツ

トハルカニ見ヤル　語・けハ遠ざけのけし

○ふびんく　不便の文字あり　フツガウナ　又　キノ

ドクナ　不便あるるをてとハ一ウ思ふんく・俗ハ憐むんふ特しくヤ

○ふるさゝと　旧都ス・荒郷ス

荒宅あり・故々をふもが　ハこのをふれるあり

○ふつかく　ダツカク　テツクル　トコヱテ井ル　特

○ふさぬ　取拠るく　一カラゲニ　スル　ヒツクルヌル

していやーきんよある　時・俗語ふ同ト　デンブナ

○ふさやこの　フツ　サリ

○ふさに　タクサ　ンニ

○ふく

○ふくいとくろし　顔色のいとく　ろきをつふ・通

つけし　ヨクダ　ウシイ

氏・又枕草　紙ふあり

○ふさたゝかゝび　似合ヌ　相應セヌ

○ふ

くぶむ　櫛けづらぬ鬢の　ボウく　たるを元

○ふくよこの　ブツ　カリ

○ふしめふるし（ミホ〳〵トナル 侍）　○ふるめ
目ある〳〵

く（バタツク）　ふる〳〵（バタ〳〵 そのはねをきゝ又扇あとつのふ声〳〵）　○ふし

こへる（子ガヘリスル）　○ふるを（厩きて又すつる〳〵）　ふるさる（ミステラ）

○ふすぶ（リンキスルヤキモナヤク）　○ふぐき（雪ノフキブリ）

○筆ころむ（カキゾメカク）　○ふみきく（踏スヱル）

○舩よそひ（舩ゴシラヘ）　○舩よだひ（波ノ舩をかるをゝ）

○舩よどこ（舩の洋るをいふ）

こ部

んおごり（ジヤマシゴ〳〵ロ）　○こよふし（各別ナ 各段ノチガヒヂヤ）

○こゝし（子ゝしるゝ）　こめのし（大ボコナ 大ヤウナ）　こ矣く

こゝし（上〳〵ゝ仰ぐ）　○ことふるゆ　ふし（ナンノ申シ 絶モナイ）　○こ

ちゝし（ヤカマシイ クダ〳〵シイ ギヤウ山ナ）　○こちふし（こちゝ風骨の）

音ニ今ブコツチ いこれを音ふまとるこ とふ

○こうぞ 困ぞえり クタビレル

○こて

ろつくさて キヲモム セイワカス

○こてろばくし シンキナ

○こ

ろもで そでこそも衣るれバ同ーことぞあり

○こてら こてぞく

詞多あり

○こーらふ ナダメル 取ナス スカス スヽメル

○こてこと 此度

○こゆ 越ス

こす コサセル こんハこうえーむこゐ 也自然の約こすハ使役の約こ

とまゝぞ トテモソノクラヰナラ

○これぞこの 云云 コレガカ

○これやこの コレガカノ云ミカ

○こてずはホ シヤウコ

○心もとふし 待ドホナ 又物のすかもゝで後見せぬこもあり又俗ふつふごとく ウサリモナク

○こつもかのも もハ面なり アソコヤコヽ

○ことつけ

ヒナる心も有

○このもかのも

て からうけて こガヅケテ

○ことづて 傳言 云 づてくく

○こてろお

く キヲタテル 用心スル コヽロヲカケル 又常ふりふふ同ーきるも有

○こてろおこのる キガユハセヌ

○こがつ コハス

こがる コハレル

○ことくぞ

ノ云ク ジヤ

ナンゾトイフト
こゝある時
マサカ何事ゾアルまハ
○ことにふ
れて
ナニカニツケテ
○んのふし
オモヒナシキノヽへ
○ん
ぢゝ
ムナサワギ
○ことふしゝ
ふしび
るふしぶり
へイキ
ことふしぶ
るあり
ふぶきげふく
シラレカホメ井ル
ある
○こゝろ
ヤシヽレス
オクユカシイ
ん
やすしのゝゝあり又笑つ
ふゝしゝ
のふゝんづのひゝある事もあり又常云ふ同しれるも
あ
る
○んをさむ
氣ヲ引シメル
○こゝさゝばこの
ワザトバカリ
○んゝひ
キノツイタサリヤク
○ことゝ
仰山ナ大サウナ
○こゝろやり
子ンバラシキホウジ
○んを
面白ウオボエルヨイト心ヨク思フ
コレデ
やる
○んあて
オシヽ井リヤウアテズッポウ
○んぢゝとる
云
云
キノアル云ヒ
○んやまるす
存念ーバイニ物ズイタスヽヒ
まひ
○んゆく
存ジナガハレル
ム子
○んをとる
キゲントル
○ことに耳たぐ

サシテ氣モカヽラズ
キヽタウモ思ハヌ
るんもあり ナ
シノヨモナイ

○るもあし 姑あきん 申シブ
ムガナイ 容易ナ

○こゝろやまし コメレダウナ ムシ
ヤクシレヤトスル

○こゝろぐる キノドクナ
イタ〳〵シイ

○んぼ短し キミジ
カナ

○んぼきかゝ キニクハヌヨジヤ つきあた
ヨと。ふ思もるヨヨを云

○ん
づゝ ジブレノ心カラ
ぶゝの教

○んのゝ 心ノウ
ラナヒ

○ん
小入る こゝろまゝて思ハるヨ。今 キニイル
とふ詞。これより出て特〳〵たゝるヨ

○こゝ

人 余人

○こと物 外ノモノ こゝ
ハ吳から別ヘ

○このわど コノセツ
此アヒダ

○こゝろく コドク
井サイ

○こまやの メイ
サイ

○こゝろさゝて ワザ
ト

○こと〳〵 云
云 何ヨふとあれ其ヨを取立てるとすゝまこ
く俗ふ キツトヨイ ふど云 キツト の心ヘ

○ヨにあゝる オトガメ
ニアフ

○云云こゝろわひ

云くノ
じせツ

○こゝろよせふきく 耳ヨリナ一二思フ
宇治拾遺ふ又えた

○腰居（カヰザリ）　著聞集

○木居（タヰ）　鷹の木ゐ居るをいふ

○ことさゝ　ワザト

○ことさゝひさり　ワザ　モノヲイヒダス方

○こちく　葉及赤染衛門集

トガニレイ

○こゝとでさて

ブコツ〳〵トシテサル　こちゐをこちとい

ふゑけゝをけゝかゝずとゝぶめゝ

○こゝろ

うつくし　キガヤサレイ

○こけむさ　コケガハエル

○こ

とゐゝして　テホザリニシテ

○こ陵ぐへる　老人のあとへたゐこぐへ

ぶてすきるす

するゆるう

○んをさゐゝ　ムフレベツ

○こゝば

くる　こゐす　共小同之ゐてこハ木ゑ木をきりこゐすを

ゐて木を切こゐれとゐ初もあり俗ゐゐ

小同じ

○んげさうす　心中ゐとりつくろひの用をするゝ

○事

ぞともふく云　何ゐモナウとゝ

○こ紀る　雨雪ふど

の稲をこく如

くふるをゐ

えノ部

えゐ〳〵び　一通デナイ

んだつ　アギヨヤルモ　ツタイツヘル

○えんゑ　フウリウナ

○え

身タレナニヨク　よそふ

ひーてぎとけぬるを云

○えうず　ノゾム　要の字ニ此字モトムとよめり

えんふねをぢして　女の

○えせもの　フラチモノ　ヘチモノ

○えぶの月　古今長哥ニ云

〳〵り　圓浮の月

ぶ　ボンブノヱ

○えさ〳〵ぬ　云　ノガレガタナイミヽ　ヨンド

コロナイミヽ

て部

てゐ〳〵ひ　ムダガキ

○て〳〵ど　道具

○で〳〵が

く　調樂ヽ樂の

ふ〳〵しゝ

○云

云てふ　ミトイフ　云

云てへも

で　ミヽといへまバヽ

○て〳〵ずず　調するヽ衣服を　コヽラヘルヒタブル

○てづ

つ　ブチヤウホフ　手推れ

○てさぶり　テサハリ

○てふの　給仕ニン

○て〳〵父ヽ

○てずさヽ　手ムダヿ

○まもたゆく

手ノタル イ位ニ

○もすまふ 手モヤスメズ

あの部

あり 有時ハありのすさびふミハ存生デ井ル 思ふ人ハありやうやとハ ニメデ井ル ニ秋 ○あぶ

すはふ かそく ○あさけ 朝明 ○あさい アサ子

○あ〜がふ あ〜ハ爭ふのあ〜ふ同〜 かるへ〜 ギヤウヲハル ○あまへ

て云 親〜こなること云 俗ふ云ふ同〜きすあり 又 云 ワバエル ホタエル の心もあり あまハ甘なるべ〜 ○あ

らま〜 行まノ心アテ ○あ〜かごめ ニヘヒロカ ラカ子テ

○あそびがごき アソビ アヒテ ○あ〜 仇〜ときこ又人を怨する悪人〜

○あぐえ うハべのさうびバ〜少そ 実のかく赤のとをぬ〜 あぐ人 レヤウ ワル

あぐ物 嵩の如くたうふ くもりきあく あぐけ〜ま ウハキラレイ イタヅラ〜シイ

あぐえく 上と似さる云 ○あぐじん 外ゴ コロ ○あ

いぐれすり あまくふる様と法セリ ○あま〜〜〜 セハシナ イ あま

このあたり未詳

○あさる　レフヲスル　本ハ魚の餌を漁るなり。故に地ヲアジヤケテ物ヲサガス　ふも云

○あちこち　メツタムレヤウ

○あちひ　見シロ

○あざむく　ダマ

ざる　ザレル　シヤレル　あさける。あざむく。あざ笑ふ。あざらの類のあざ皆同

○あこ〳〵さまて　ツイヲヨウト　カリソメニ　本ハよハのふるなり

スアナドル

○あ〳〵めもせん　メヲハナサズ見テ井ル　えバーの夜よそへ目をうつしをあ〳〵めとつふべし

○あふこの波　シイ〳〵　のまびすき波を制すること

○あらつけ　ソロ

ツコイ　フシツナ　あ〳〵淡あり

あたつこのに　キナミニ　志ミヤ　このあ〳〵ぬさまく

○あハ

あたし　ウヽミガナイ

あたむ　サヽスル

○あちきおし

ムヤクナるヲヂヤラチモナイ

○あまびて　天人　山彦　とハ別ヽ

○あいぎや

う　愛キヤウ

○あさむ　キヨウサヽス　感する心もつふ。あさまし〳〵がる

アキレル　驚くふも

あさまし　キヨウノサメタるヲヂヤ　アキレタるヲヂヤ

○あ〳〵す　ソデナイ

イヽヤナンデモナイ

○あふさぎるさて　一方がヨケレバ一方がワルウテ　とふふの初あり

○あふ〳〵〳〵　オヽハライタ〳〵

○あてあり　あてか　あてやの　ウチアガツテ井ル　キヤレヤナ品ガヨイ

○あふる　オチメニナル

○あづ〳〵　ワヅラウテ不快ナ

○あり〳〵て　ザニネンフリクノコリ多イ

○あこのびて　ダン〳〵トノラレテキタ其アゼノク

○あひ　ナニトナウムサトナシハリ合モナク

ふ〳〵　ナンノラチナモナイコヂヤ

あひふ〳〵ひろ〳〵　云

あひふ〳〵ひろ〳〵　云

あひふ〳〵れえ　アテニモナラヌ心アテ

○あや〳〵　ザマガワルイミグル

○あやあ　フシギニ云　メイヨニ云

あやしく〳〵　フシギナ　ケシカラヌ　イフウナ　法外ナ　キドクニヘンナコデ

○あたや　古ヘあやとも云後ハあらヌやあ〳〵と云ヤレ〳〵

○あへす　ケシカラスキツウ

○あへず　エ持コタヘス

○あへず　云云あへず　云〳〵シアフセズ

○あへふし　ミナカラガオキタ　ニラチガアカヌガナイ　ゼンモナクハリ合思ふ〳〵でいふのひふく思ふ時のこゝろのきまゝ

○あへのく　いとヨのくてゐたかふくよヨたまゝ

○あくれ　アツくハレヤレ　悲しきけ又ハ感心すると云の發語〻今アツハレとふ俗語ハ感心よると云のあたれなり

○あ〳〵れ

上の發語を轉して、悲しむべきを、憐むべかるを、又ハ災殺すべきを、感ふたくさるをさしてつ

つまがゝし　キドクナ　メツタニ　ナイ　ガヲレジヤ

○あぐる　退散スル　あぐれあ

このるゝことハたらくゝ

あゝれハ　ゴタイサン

○あゝら　云云　アツタ　ラミミ

あゝ

ヲシ　イ

○あゆ　アヤカル　あえ　とゝ

○あえ　アヤカリ

モノ

○あせぞ　水よりハ常あれど色のさめぬふもとのかハらぬもつへり。ゐも色も深し。淺しといへど

あり。あさハ　あさむあり

○あざやら　ハツキリ　キツカリ　ありあやら

あり。あゝハありくのこゝろあり

○あや　ワカチ　あやハ　モヤウ　ゝ漢語の文章又文理ゝあや

あり　ハ　ムチ　あるもの。さうひとちのふれぐ如き

をい　ふ

あやめもゝ　ミツクラデ　ワカラヌ

ワケガタヌ　ムナヤビヤ

○あやふ　メイヨニイ　ヂワルウ

○あぐ

ゝ　ロハ　ナ

あぐれゝり　上と同じ。紅葉して　れゝりと云ふ如し

○あとえ

このもふし　證跡モナイ　正体トラ　ニヘドコロモナイ

○あふい　キヽ合せ　ヤウス

○あさて　アサ　ツテ

○あゝ形く　奥おくまで。ぼくゝ　小不を奥おくるゝ。

○あゝた　レカヘシ　宇治拾遺ふ又色今俗アタニ　とゝも即このことゝゝ

○あきれ　エシ　マカン

○あつのた　ムツカレイ　アツノロレイ　ウザウサトレテウルサイ

○あひちふし　世俗ふ　アイタテナイとゝふ　れなり源氏物語玉津物の汲

○あやまず　云　マチガ　ヒナク

○あやの　源氏横笛いゝはん地もあやまり　を　ん地そこちふとゝふ同じ

○あゝ　変ずるこゝ　あやハ　嶋津日を　あやつびともゝふあやのこゝろなり

○あがりゝる

○あけぐれ　あけんゝてハまづく　らくなる空をゝふ

○あ

こゞる　あくゝゞるゝゝふ悪あまりて堀の方をゝゝれ　又ハ身の家をゝゝれてまどひありく故をゝふ

世　上代

さノ部

さゝらふ　オナブレル

○さるハ　サテソレハ

○云　云さへ

其上云ゝ云デ　又俗語と同之

○さゝぬ云　不避あり　えさゝぬとも云　ヨンドコロナイ　○又さあ

らぬく
其外ノ

○さかーら カレコダテ

○さーぐこ まのあたりの

ゐっちり サレムカヒ 又 ナミダグムを もいふ是ハ涙を省きたる義なり

○さいかむ 折攝スル シカル せ

ムガ

○さだ 定まり コレパン

○さぐすねり 程ガス ギメ 盛

チコレタ

○さふらふ 井ニスル 伺候メ井ル 御前ヲツトメル

ホハきもらふ 見合せル とも 俗

語の心く夫ゆりーてゆ用もあーんかと伺候ーて居るるふちりス

物ーて目上へ對ーて我身の居り有りといふるを云ふ後

ゆを代りと回文ホ

用る樣ふ有れ

○さーぐぞく きーぐぞきてと濁ラく 詞字音をさーぐーか

せてさるく
裝束スル

○さばらこの 髪のすくまむーちるを云

○さーぐーに 事改メテ 又 子カラ

○さーぐ 云々 のさ

なり 勿論 チヤ

のハ ミノナラヒ ソレニツ

ノタクせ ゑ又 アタリ下へ

カ下ーノー

○さーぐかーー 物いひさぶらーハ

ロガワルイ ロヤ

○さーぐかき童ハ ワルイるスハ

子供 ゑ心さぐかきハ ゑ地ガワルイく

○さーぐる 俗ふサ クズル

又コヤ下ヤクレタ あどいふ皆もーり出さる詞ゑ犬

どろあーずしてまーぐりーねりーーやーの心をいふ

○云 云さ

れむ 青されむハ タナれむハ ハルニナレハ タカニナレハ

○さーりーも ヨモヤ

○さつやの サツハリ

○さまたへ云 ワザトキツト云

ふりたえと
何とる云へ

○さくし さびくしあり一事ハ
るありてさびしきこと

○さま ヤウダイ 又今の俗人をさして様とつふるハ屋形様
公方様などいふなり 物りこと 廻小て古くハ増鏡九ノ
西園寺様と云えうり 山様ハかゝ様 主も様 又近習
みさまふるの様小て方といふ仰こと 廻あり

○さし

すたれうり 出スギタ

○さのし カレコイ 又サウジヤと
れハさハ考うて かし 浴すもさうしあり こ
たてにをはのかしへ

○さくえく サヽヤク

○さくめごと

サヽヤキゴト

○さくやう チウコリキヤレヤナ

○さくがふ クモ二つ
ともふきくの之
を回しく狭小へ

○さバ さあくバく ソシナラ

○さゞれ さも あう
どあれの約又あり

○さくうどく いそぐさまこさくハ騒ぐどくハどうの滅
マヽヨカマヒハせ又
らきたるあり どうハらうの約へ大らうを大どうともつひ
夫を活らうして大どくともつふふてもるへし

○さ ザワツウ

てさて シテくド ウヂヤ

○さぞ云 俗ふ云 小同し

さて云

さぞの之ふ回しれりあり 又推量ふあ
ざる時ぞたゞ カヤウニユソ のさあり

○さすご 俗ふ云 心ふあ

らず。ぞハまろ〳〵なるぞ〳〵と同じ絹
ろ〳〵ま〳〵を指さる絹〻

○ざれて あざるのあを省きるこ〻なり
サレドモ

○さよ 深更

○さぬ 男女

○さり サシツカヘ 故障

○さ

ざれむ アジヤラコイ

シヤレテ

いつころ 前つ頃あり 先ダツテ

○さるやう有て 子細有テ 又あ

る樹とも云

○ざゝえ 學問 藝術 技 の字音あり

○さゝ〳〵

弛〻〳〵きぬの書のさゝめくをゝふ

○云こさる物ふて ミミハ勿論ノタトノケテオイテ

○さだこの子を ソレホド クノ 又ソレギリ 又形ノ如 ゝそ〻ぐ〻のえまり

○さま

ふ ツブヤキナガラブラツク

○さを 正青あり マツサヲ

きノ部

きこゆ 申シ上ゲル 又申シ受テ とゝふるをきこえてとつふる。源氏あげおきゆえ〻〻

○えこ〻

きこゆ 云〻〻なるとゝふる同じ俗 オアゲ申ス 又上ケマス トメマス 申スマス 申スマス 又同ド

オ留ノ申ス

○きもくし 際〻〻〻〻 目立テキツトシタ ハキ〳〵トハキツク

きハや

この 上ホ同し ○きハ 身分分際 ○きゝくし 美ミレイ立派ナ

きゝめく ハデニスル ○きよら キレイ ○きゝ

らふ きゝーアあふまり アラソフ スレル ○きちふ ハリアフ ○きそふ

上ホ同し ○きびた 幼少 ○きゝふむ イヤシメル

○きこえん方ふゝ 何トモ申シ様ガナイ ○きすく

すくようと同じ・やゝこうあるべ・ツンニヤンとちるるべきハ木れ

あり ○きよまは

る 清浄ニスル ○きやゝざく デトガヨイ 懐ニ策杖詩文の句のよれるを・好ゝを

物事のすぐれてよきるをを云へり・

ふむ 御辞退申ス又 きこえかへて ○きゝふ

れごゝ カベソシヤウ ○きげん 機嫌ある シホ アヒツガフ

きと 云 云 ふゝ仏ゝとる初し・楽くやうふ てんのあゝとまるゝとちく ○きえの

へる 死入ヤウニ思フ

ゆノ部

ゆゑ 云云 カナラズ〻〻

○ゆちひの ひろひふく とりあつ

きかふ 行かふく ユキチガフ

○ゆふつけて 日暮ニナツテ

ゆし 大切ナルコト 犬ソレタルヲ

忌〻あり。さるゆゑふいまふ〻きんもあり。又すぐれたる あやふきるを とふはつぶ ハ忌

ヲをも云時。 ケシカラヌ

ヒドイ エライ の心あり

○ゆゑづけて ゆゑづゝ せてく

○ゆゑづきて ふ〻あるてと いふごと〻

○ゆゑゝし ふ〻しと云ごと〻

○ゆくて トホリガラ

○ゆくゝとかふ フィニ

○ゆ

くりふく 思ヒガケナク フウト

○ゆゑゝし 季細ノワケ 又ヲヒあり

おふん得のある やうのるを云

○ゆくゝこの ユツタリ

○雪風の云

う白 雪ガアキレル位シロイ 雪ヲ一カス位ニシロイ

も夕方ふ色の まさるを云

○夕ぐゝ 花よりも男女の良ミて

○夢のたぐち ユメノスグミチ

髪あゝふ湯〻ゆするまかる

ゝオグシアラハセラレル

○ゆする

め部

めざまし　心のうごき。目のさむる行のまをふ　アキレル　イカヾシイ　シングワイナ

○目や　こぐルこ　カラヌ人

○めやきた人　見ふくかゝぬ　ヘナンガナイ

○めうつし　下ふつくてふえこ　ヤウスヂヤ　ーートミエル

○云云めまを　一方よりれおをえゝこる目ゆて。又こあさをえくゝぬるゑう

○めでたし　ケツカウナ　ウワヾシイ

○めくハきて　メ、ゼデ　レラセル

○めくしをしの　ゝゝこ

○めづ　愛ス　賞翫　ニオモフ

○めしうと　オテノカ　カル女中

○め

牛ふ後つのる　著聞集ニえこうり。あるどりゆぶんして　るふあひゝゝたゝこへゝり。カヒ犬二手ヲク

ハレタ　とて　ふ仰さるゆこ

○めもあやふり　すぐれて華麗なるこ。手跡のえるすあるをも

云　ニハルモカヾ　ハユイ位ヂヤ

○めぐる　存生デ月日ヲ立テル

○めぐゝふ

○めもはるふ　目も遥ん見渡したる　かぎりの度きを云

○めのれぞ

めかまぜず　目ハナ　サヌ

○目をそむむ　不和ふる中ハ。

顔を見合するすがく側
目ホのくゝるをいふ

みノ部

耳やすし 聞ホんのおちつくをいふ ナイ評判ギヤ めやすしの義ン

○こやづ 風雅ノ ミナ

○こやび 風ノ ウス

○こやびを 御幸 公

○こやびのおり 品ガ エイ

○こざのし 位の高カヽぬ

をもいふ

○こうまくむ 極老ゆて腰膝のかゞまるン

○そてくし

子細ラ シイ

○こづゆふ ビンヅ ラユラ

○こやす

ホメナグリナガラ見物スル

○こうす 聞及レダ程ニモナク見テハアイソガワキル

○こぐ里がし ラリ イ ラリヂヤ ラノナモナ ラッシレガナイ

○みど

○ろく 身動きする ムズワク

○みくこのしまし ヤカヘ シイ

○ささを 行伐 タテ

○ささをつくる キツト守ツテ井ル

○ささをふ ジツトノ カホデ シラフ ヘイキデ

○ささを 水 筋

○さ

をつくし

舟ノ通ルシルシノ棒グヒ

○分をつくを イノチシマフ

又ハせのかぎりとゝふる 同ー 一生ガイ 死ルマデ

○ことがらを 水かくれく

○こけ

〜死むとする 注ノホトヲオウガヽヒ申ス

○こさ〜 宇治拾遺物語

ふ声く又衣の水ふぬるく良く

○こづをまこの田ノ水ヲカケル こゝ又庭ふどふせさ入るく

をも云

○こつく ナジム 源氏紅葉賀 ゆきあきくハ又ついまくふとあるハえつれこづくハ住つくか

こゝ〜こつくのつくふ同ド

○こおわせ ゴランジサダメラレル 源氏あこの〜

○こけまるる ゴゼレメシアガル

笑止デキノドクナ と

○こ若〜 俗ふゝふ同ー 又見ル目が

いふこるるあり

○分こゝとふふる 出産するあり 身ニツニナル

○こゝその ナイミツ

○こふぐ〜 ぢふぐ〜 ノコラズ

○水

せき入る 川をせきて水を流れ入らするあり

道一パイ二 交も せ野もせと同こ

○そもせふ 道ヒサニ バレト

志ノ部

ゑめやの

シツトリ と称する人の有れば。ヒワソリ 又シヒく と称する時節あり シツポリ と称する時節あり

○ゑまうごぜ カダグチ

○ゑる 俗語の主の外

ゑざなり

ホ ハカラフ まく シハイスル 領知スル 等の主有

○ゑくずす 俗語の主のみホカマハ又 とゆふ主なる

○ゑづんかし ゑゞ者静なり。せハシナイ・キ

ゾカハシウ・ギガユルセヌ

○ゑくかい シツカリ 本式 又 いうめ〜花主

○ゑの

ぶ カクス カクレル コラヘル 又 思ヒダス コヒシガル シタフ 此二つハ外なり別にのことむく

○ゑれ物

バカモノ

○ゑづく 水中小潰ル ことなり

○ゑどけあ〜

取シヤラヌ

○ゑふねし 熟命〜きなり。字音ホそく〜くて ホそを考へて。和語のそく考さるハ。

装束するをさう ぞくとゆふ数。

○云云し も 此てホんの主ハたくへハさる折〜もム云ハ。 折モアラ

ウニゴレナヨリニサレアハ セテ

とゆふやうなる主。

○ゑくむ 物ゆえさだの外又極むるゆ。又ハたしれ

とうとくの〜るゆをいふ。況の字をよめるハ。きハむる方に。ゑくくハゑくくかの考くなり

○ゑくこらの

す レモツ ラカス

○ゑぐむ チヅム 小児の陰をゑくといひ。ゑぐらといふあり物ある。を国主なり

○ちる　著きん。證拠ありて明白なるを。兼ていひ思ひしりのたぐひなをあていひしるを。思ひしるも

ちるくふどりてふもの。戯語の驗りあり。右同〜詞ちり

○ちとくに　ゴトジ　ト、

○ちめやぐ　レホタレル　このの話きたるく

ちめる　上ふ同じ

○ちむ　我物

と歟領する

○ちくど　舌疾あり　ロバヤ

○ちぶく　フセ　ウグ

○ちほどく　ちかとくこ。衣のちほぐこ。ちふどけしと。源氏あり〜ふ又也

○ちまひ　レリスボマリ　源氏梅枝巻

○ちのふ　ちげくく

○ちかぎむ

タコズレガアタル

○ちをる　キウメイスル　コラシメル

○上ちめ紀

たま　貴人ラ　シイ

○ちくく　折ツケ〜ち　きるくく

ち部

ちひちれて　ヨヒタ　ボケテ

○ちんぞ　フツクイフ　怨ずるあり

○ちつぶふ入　保元物語ふ又也。俗ふ云ふ同〜

○ちひちた　酔て　ちげ

きごとふを　ナキ上戸

と甚〜くふあり

ひ部

ひとすら　ミシザラ　ムシヤウ

○ひとこち　ヒトスギ

○ひとこと〳〵　ひとこと〳〵ともあり。即きんあり。又人笑をせともあるへし

○人だ　不外聞

のめ　ヒトダマシ　人を死ぶ思くるのこふるをいふ

○ひぐらく　口を動かすこと　ロタヽク　石川雅望云、ヲをうでかをゆもつふまり

○ひとぶるに　ヒトスヂニ　ムシヤウニ

ひと

ぶるん　一筋ニム　イキナ心

ひたぶるんある物　ムホフモノ　ソサウナ物共

○ひきずこ　文の封じめのもの

○ひとろ　外聞ワルイ

ひとふくゝ　ミグルシイ　上小似こる物くこれハ姿形のこをいふ

○ひとぢ

ぐこ　一段

○人だえす　人ソバエスル　枕草紙

○ひとこと

ひとり　トチラヅ一人　タレソヒトリ

○ひゞもの　ヘンフツ

ひゞひ

ぶゝ　ヘニナタ

○人ぎゝやさゝ　世間ノオモハクガハヅ

○人けふゝ　カシイ

○ひとこゝふ　身スボラシイ

引ずをつ
そとたく

○ひそむ 貞シカメル ベソカク 法 ぶかく又晨貞のさまく

○ひ

ゝやごもつ ムシヤウニ 引コモル

○ひゝ ハギ オヒ

ひゝ

ゝ紀 上ふ 同ー

○引まさぐる 引ぶかくるく

○ひと

つむゝ免 獨ム スメ

○ひざゝ 非常ゝ 法外ふ るるふもつ

○びさゝ

美相ふーゝ優美の風のあれあり

○びんふし

フツガ フナ

びんあし フワガフナ び んハ便ふり

○ひきゝつ ゆる

やゝうのふ きさまく

○ひすまし 石川雅望云よごれたる物を洗ひ又ハ浴室ふとをも掌る者と想ハ

る禁秘抄ふ ゝえゝり

○ひづ ビツタリ ヌレル

○ひーと云 云ーく きゝび

ゆゝゝふき然ゝびーゝくゝふかゝゝるふどひ

又襖の数をひーとさんにふどゝ云ゝ相同ゝ

○ひーく 足音

のトゝく とす

るふどふいふ

○人やつ 我心ゝうハせんべよ ひゝさゝるくをつ

○人や

つゝふ 我ふゝゝゆて人 のゝゝぬるをゝ

○ひとゝふゝ 同格

○ひゝ かよゝき格 ゝ エウチナ

○ひゝし ヒガナ 一日

○ひ

とひ　イフ ヅヤ

○ひとせ　先年

○ひと夜　先日ノ夜

○人が〳〵　俗語ふ同〳〵

○ひゝけ星　バウトメトリミヘリガナイ

○ひゝおもて　直のさ〳〵むうひゝそ。んのおうゝるゝ

○人ふゝ

ぐふ　世間ナミヲヤル ソヲキ合テツトメル

○ひとりごつ　猶グチキク

○ひぢ笠雨　二ハカ雨ハ袖をうざす故ふ臂笠あめ

○ひめれく　カクイテオク

ひめゆ　秘事

○ひゝる　日ヒヨクニナウタ日月の蝕をとるもふた

えと

ゑ

も部

もしハ　云　アルヒハ又ハ漢文読ふ云是をもしくハとふ

○えのそゝふ

ひ　シモツラカシ

○もてふ〳〵　トリアツカヒ　トリムケ　アシラヒ　トリ立ヤウ

○もてふ　トリアツカフ　トリナス　トリマカナフ　又其ふりをするをも云

○物を

かふ紀　云　ラチノアカヌゝ

○物の便宜　ものゝウイデ

○あ

思ひ出れる人　物事ヨウガテニシタ人

○云　云　そのあ　ーー　ヨナ

カラ

○ものす　何スル　何と定めえずして・前後のヨ体ふて・人のおのづから心得らるゝ・但し國ふよて・ハ・今ふて・も物とてふ

○そのし　古板ふハあるまゝきこヨをと・人を恨むる言の詞　イカヾレイ

ドウヤラシイ　物しと思ふハ　キザハリニオモフ

ちり・物しとこるを　目ザハリニオモフ　ある

モツタイガアル

○物〳〵し

ゼニメガアル

○そのらし　心ガスこヌ　イヤキナ

○そもた

むつのし　ムサクサトシテ井ル

○もよおす　サイツクスル

○そのげふし　ゼニメガナイ　位ガナイ　ゆしのらゝく

○そそた

けて　人のヨをつふ時ハ　トリタテ・レコミニテ　我身のヨを

つふ時ハ　タシナミツヽシンデ　又ハ　モチコンデ

○も

どく　アくデハナイト扨判スル

○もどかし　イカヾレイ　俗ふハ　ラチガヤカヌ・ハガユイと

○もそ〳〵　子カラサウパリ　漢語の全ふあるまり・その字を訓ハあさ

いふヨふめこいへど・それふかぎゝぬ初く

ら

○もぎ木　花や枝ヨやをもぎれたる木ちり

○もれひさご

す

ふし　ロガワルイ

○物あ〳〵ごひ　チンジ洒

○もろ

ともぐ（トモ）

○もちあう（ニツタダナカ）

○えのくけ

ナンゾノタメリ

○物のひめ君（ドコゾノオヒメサマ）

せ、部

せ、のい（バレヨ）（世ノ中）（世間ノメンニ）

○せめて　俗ハ三ハ同キ事モアリ。又近クセマラン、又ヒ

て、ガせ、ーラ出ス、ンもあり

○せらぎ　小キ〳〵浅キ流レ　せゝナギ

ゆ　えゝ、せ人（とえゝ）

○宣旨がき（代筆）（俗ハ）（オホセガキ）（とゝふも是なり）

○せ

うそて（書簡）（口上）（アンナイ）

○せうえう（ユサン）（河せう）（えゝうハウヲ教）

生く

○せちに（シキツテ）

○せ（川の瀬ハ譬ヘテ）（場所）（時）（節）（等をいふ事あり）

○せんすべなし（シカタガナイ）

す、部

すぐろく（ワケモナイムサトシタダスギヤ）（メツサウナ）

すぐろ糸（ムサトメ）（ツタニカ）

モハズ・レラズ　そぐろ

と本ハ同ジ事ハ　すぐろく　あまりメツサウもふる

ふ、ガ〳〵ちぐらふんく

すぐろし　ムサトアハレナ

○すきくし　ス井キヨウラレイ

すれのまし　上ニ同ー

○すきこもれ　好色人　風流人　すべて物ずれ

ある人をふ

○すきる　ス井キヨウワモノズキ

○すく　色ヲ好ム

○すたれたるある女　色ギガアッテジダラクナ女

○すくよこ

ツンシヤレトシテ井ル　シヤツキリトシテ井ル　氣丈ナ人の心

くん

のこはきる又ハ山のけしくきりそたるやうあるをも云

す

くようけん　シツカリシヤントレタルキレフ

○すくくと　ズンズト

○すまふ　シリゴミメジタイスル　人をこばむ敵對するんハ俗ハもつふ相人

○すこ

のこ　板縁　上古ハ簀子ありしー所ハ世ハ世ふりてもやはりてハふり

○すさぶ　せ、ル

す

さび　ス井キヨウナグサミ

○すさめび　賞翫せヌ　駒もすさめび　かるんもふしヌ人ハ足ナ

てらかるるのをすきめられさまとこハ後ハ朝ぐたるもう

○すげあう　ムメイニ

○すぎく　次くゝ　ダンくニ　ジユンくニ

○すさまじ　不興ナ　キケンナ

モノスゴイ　セハシナイ

○すぐくし　テキハキ　キビくト

○すぐや

の

サソ ソク

○すごし

オソロシイ

○すくかげ 遠間うり えもの明

アラヽ又ハ籠かどうり えすく人うけをもつ

○すくせ 宿世人 アトノ世 因グワ レアハセ

○す

やつ 其奴の約之又約 トてもやつと云

○すげむ にあすげむい老人の 歯のまむ〳〵ふるを云

○すぐく 多蟲の草木ホとまり枯上をあさる たぐいをつ

ダム ハイクワイスル

○すかハ

ち 即座

○ずんかがる 盃ガニハル ずんハ巡

○すむ 妻と すハ

人の家ホ通ひとまる ゆをすれすれむと云

○すかるどり 魚殺 生

○すべて

一同ニ 全体 フウタイ

○すけて スヽ ビテ

○すべす スグ 時衣を すべ〜かき

てスヌク たくかの時 衣をぬきすべすを

○すべるいづ コツソリ トイヌハ

すべるい

る ソツト ハイル

○すべるー せんすべる きん コマル

雅語譯解

近刻書目

離屋鈴木先生著
雅語譯解拾遺　嗣出

同
玉小櫛補遺　紫屋大人乃源氏物語の注釈のもれたるを補へるなり

同
言語四種論　云語乃口語以列挙せる編なり

同
離屋學剖　学問の大意人倫等をのべられたる書なり

加藤磯足先生著
校異土佐日記　佐日記并異同を校訂して傳注并既書をくさぐさへられたる書なり

市岡猛彦先生著
同追考　一冊　近刻　諸書よりあらはれる後漢諸先生の考へどもを廣く集めまとめる書なり

天野信景先生著
市岡猛彦先生校挿
塩尻蛍考繩　初編五冊　二編五冊　近刻
伊勢の秘義する所の塩尻の旧本数十部を集め校訂してあり
一篇五冊づつにあしらひて近ころ出
世に珍重すべきいへども廣大なる事書なり

文政四年春
書林
京都寺町通五條上ル　天王寺屋市郎兵衛
同　天王寺屋嘉兵衛
尾州名古屋本町拾丁目　松屋善兵衛